

現場のデバイスを従来のコンシューマグレードのタブレットから タフブックへ刷新。頑丈性とIT資産管理の効率化を実現し、 業務効率・安全性・コスト最適化など多角的な成果を達成。



象印マホービン 株式会社 様

導入時期：2025年
導入地域：東日本、北九州

課題

物流センターの運用デバイスとしてコンシューマグレードのタブレットを導入するも、頑丈性やバッテリー駆動時間、OSアップデートのコスト増大に課題感。

解決策

頑丈性に加えて長時間駆動&バッテリー交換も可能な端末の導入で、物流現場の業務を大きく改善。WindowsOS搭載可能により、IT運用に関わる負担を大きく軽減することに成功。

“今回のタフブック導入は、物流現場の生産性向上だけではなく、現場の全社的な業務改革や最適化につながる一歩になりました”

象印マホービン株式会社
経営企画部システムグループ
サブマネージャー
大窪 真司 様

※所属は納入時のものです。

背景

コンシューマグレードのタブレットの弱点をクリアするために「頑丈性」「バッテリー性能」「Windows OSへの対応」の3つの課題と向き合う。

象印マホービン様では、物流現場において長年、他社製のコンシューマグレードのタブレットを運用デバイスとして使用されてきました。入荷時の検品や出荷時のチェック、棚卸など多様な業務に活用されていましたが、経営企画部システムグループの大窪様は3つの課題を感じておられました。一つ目は頑丈性の問題です。現場では端末の落下リスクが高く、コンシューマグレードのタブレットでは画面割れが頻発していました。二つ目はバッテリー寿命の短さです。冬場の低温環境では充電が困難で、業務開始時に端末が起動しないこともありました。さらに、モバイルバッテリーの使用が常態化し、安全面でも懸念がありました。三つ目はOSのアップデート対応に関するコストです。外部委託による対応で高額な費用と工数が発生し、セキュリティ面でも旧世代端末ではリスクが残っていました。これらの課題を背景に、新たなデバイス導入を検討されました。

導入理由

現場の意見を尊重し、使い勝手や安全性にも配慮。
物理ボタンやバーコードリーダーなどが評価のポイントに。

今回タフブックFZ-G2を導入する決め手となったのは、「高い頑丈性」「長時間駆動かつバッテリー交換可能」「Windows OS搭載」の3点を高水準で満たしていたことです。物流現場のリーダー宮田様は、導入にあたり現場の声を重視し、10回以上のミーティングを重ねて必要な機能を議論されたそうです。特に「手袋着用でも操作可能」「物理ボタンで迅速に操作可能」の2点は現場でも高く評価されました。手袋の着用による指の怪我防止や、バーコード・カメラの即時起動による迅速な対応が可能となり、作業効率と安全性が向上しました。

また、タフブックには純正のストラップなど周辺機器が充実している点もポイントに。バーコードリーダーが本体に搭載されているため、Bluetooth接続の外部機器が不要となり、外付けの小型スキャナで対応していた以前に比べて利便性も大きく向上しました。

お客様紹介

「暮らしをつくる」を企業理念のもと、1918年の創業以来、魔法瓶の製造から始まり、今では炊飯器や電気ポットなどの調理家電製品や生活家電製品、リビング製品などの製造・販売を行っています。常に生活者の視点に立ち世界で信頼されている「象印ブランド」は、商品やサービスを通じて人々の生活を支援しています。

- 所在地 大阪府大阪市北区天満一丁目20番5号
- URL <https://www.zojirushi.co.jp/>

タフブック FZ-G2 シリーズ



▲タブレットはフォークリフトの上で使うことが多く、硬いコンクリートの床に落下させてしまうと故障の原因に。頑丈性は最重要。



▲バーコードリーダーが搭載されていることで、外付けの小型スキャナがなくてもボタンワンタッチでスキャンできるように。



◀ストラップやハンドベルトなど、純正の周辺パーツの充実もタフブックの特長。

導入後の効果

故障報告ゼロが物語る運用サイドの安心感に加え、コスト面でのメリットも。

タフブックFZ-G2を導入して半年ほど経過され、現在まで故障の報告はゼロ。「以前は2〜3か月に1台のペースで何らかの故障が起きていたので、それに比べると大きな変化」と宮田様は語ります。バッテリーの持ちも安定し、「業務時間8時間に対し十分な稼働時間が確保できる」という評価を現場の声としていただき、モバイルバッテリーを使用することもなくなり、現場のストレスも減ったそうです。

運用面でのメリットとして大塚様は、「Windows OSになったことでシステム管理ツールと連携し、アップデート管理やセキュリティ設定も簡単に。グループポリシーの一律配布もできるので、管理が非常に楽になりました」と、システム部門としての効果を実感されています。

また、別の観点として「弊社では以前からパナソニック製のビジネスモバイルPCレッツノートを社用PCとして採用していたこともあり、今回のタフブック導入で、モバイル端末の問い合わせ窓口がパナソニック コネクトさんに一本化できたことも大きなメリット」といいます。情報システム部門の担当者にとって、問い合わせ窓口が一本化されることは意外と大きなポイント。故障やトラブルのたびに「どこの誰に問い合わせればいいのか」と悩むこともなく、新しく着任した担当者でも迷わず問い合わせることができるため、心理的負担が圧倒的に削減されるといいます。



▲タブレットの画面内の操作だけではなく、物理ボタンも活用。カメラの起動などがクイックに行え、業務効率UPに繋がっている。



▲バッテリーを交換することで、端末をより長く使い続けられるという。ワンタッチで外せて現場で交換できるため、管理工数も削減できる。

今後の展望

AI活用による需要予測データ取得でさらなる業務の最適化を。タフブック導入を今後のDX推進の一步としてとらえる。

今後は東日本配送センターでの導入実績をもとに、全社的な展開も視野に入れておられる象印マホービン様。現時点では、九州の物流拠点にも追加で10台導入予定、西日本の部品管理拠点にも11台導入をご検討中です。九州配送センターにおいては、初めてタブレット機器を導入することになり、今までのアナログ作業からデジタル化へ移行することで、現場のDX推進にも期待がかかるそうです。

大塚様は、今回のタフブック導入が全社的な業務改革や最適化への一步になるとお考えで、「将来的にはAIを基にした需要予測データのリアルタイムでの確認など、タフブックはさらなる活用の可能性を秘めていると感じています。今後はこのタフブックを軸に、パナソニックコネクトさんが持つ多様な知見やソリューションと掛け合わせながら、現場のDX推進をより一層加速させていきたいと考えています。引き続き、パナソニック コネクトさんの提案に期待しています」とパナソニックと描く現場のDX推進の未来について語っていただきました。



象印マホービン
株式会社
経営企画部
システムグループ
サブマネージャー
大塚 真司 様



象印ユーザーサービス
株式会社
象印東日本配送センター
リーダー
宮田 拓也 様

※所属は納入時のものです。

納入機器

タフブック FZ-G2 : 42台(東日本:32台+北九州:10台)

